大木伸銅

上期微減、月産2700トン弱

通期営業益10億円未達も

相場下落で在庫評価損

大手黄銅棒メーカーの大木伸銅工業（本社＝東京都板橋区、大木宗治社長）は、今上期（1－6月）の平均生産量が、前年同期比微減の月間2700トン弱だった。住宅関連需要の低迷などから、国内の黄銅棒生産量は1割近いマイナスが続いたが、それと比べて小幅な減少にとどまった。ただ、相場の急落による在庫評価差損などを受け、通期の営業利益は目標としていた10億円に到達しない可能性が高まった。

国内の黄銅棒需要は昨年後半から低調な状況が続き、1－6月期の国内生産量は月平均1万4879トン（速報ベース）と前年同期を8・5％下回った。同社の生産量もマイナス推移したものの、減り方が小さかった要因は「取引先が大手だけでなく分散している」（大木社長）ことなどにあると分析する。

同社の2014年12月期の年間生産量は、上期の好調さを受けて微増の3万3000トン強（月平均約2750トン）だった。今期も同水準の生産量を目指しているが、大木社長は「下期の需要環境も、基本的には直近からそれほど改善しないのではないか」と厳しめにみており、年間生産量も若干ながら下振れする公算が大きい。

営業利益は前期、前々期と10億円以上を計上。今期は、年初に販売子会社の大木伸銅産業を吸収したため、その分の利益も上乗せされる。しかし、販売価格の指標になる銅建値が昨年末のトン83万円から1カ月で70万円まで急落。5月には80万円台まで戻したが、足元は70万円前後まで再び下げている。

これにより在庫の評価損が膨らみ、1－6月期の営業利益は前年同期比で「3割程度少ない」（大木社長）。旧産業分を除けばさらに落ち込みは大きく、3年連続での10億円台達成は難しいとみている。

名古屋工大とDOWA

産学官連携功労

内閣府は18日、名古屋工業大学とDOWAエレクトロニクスを「第13回産学官連携功労者表彰～つなげるイノベーション大賞～」の科学技術政策担当大臣賞に決定したと発表した。両者連携による窒化ガリウム（GaN）系パワー半導体の開発・事業化が評価された。今ッグサ行う。

産学事例を の受賞 個人・

名古 考志 けて、 基板上 晶成長